

# ふれあい 夢 通信

6号

FUREAI YUME TSUUSHIN  
子どもを真ん中に、山口県の教育を考える

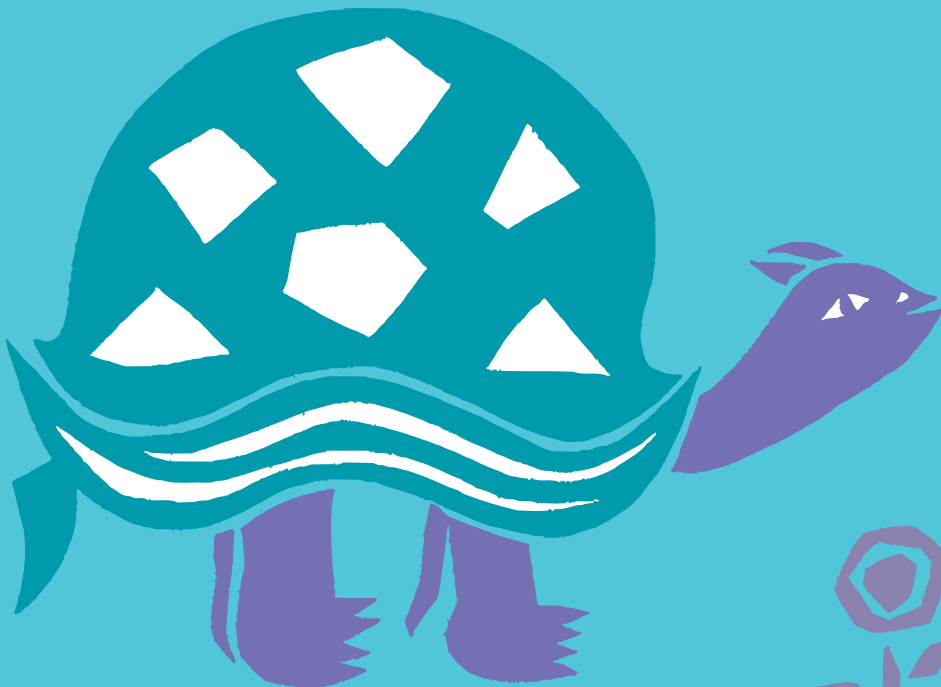
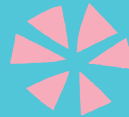
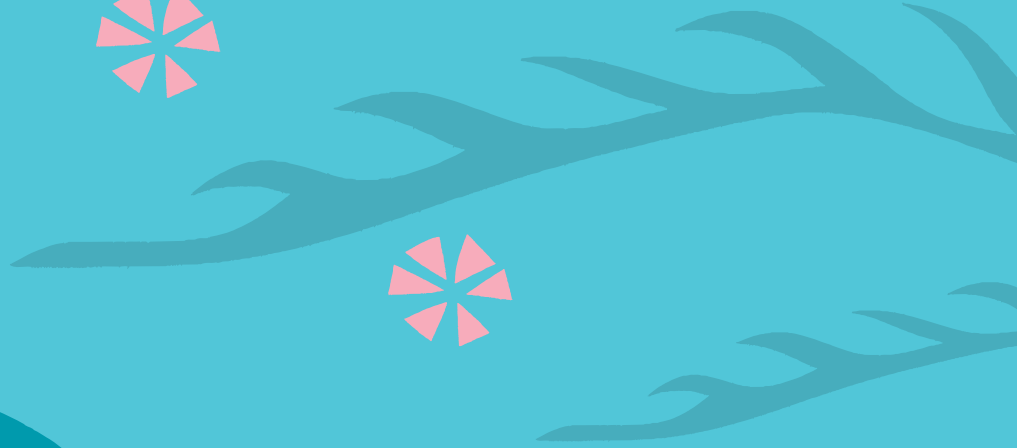
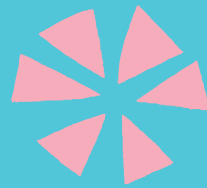
山口県教育庁教育企画室  
編集ホットライン TEL083・933・4531



**特集** 飛び出せ学校! 広がる教室  
~ チャレンジ体験学習 ~

## 地域は子どもたちの教室

子どもたちが、多くの人とふれ合う中で  
さまざまな体験を通して学んでいくこと  
は、とても大切です。今、“新たな出会  
いや発見”を求め、学校・家庭・地域社  
会が一体となって子どもを育てる取り  
組みが進められています。



# チャレンジ体験学習って何?

山口県教育委員会では、子どもたちが地域の人々と交流し、地域に学ぶ「チャレンジ体験学習」を推進しています。思春期まっただ中の中学2年生が、職場体験や交流体験、福祉体験などさまざまな分野で、自分たちがやりたいと思う活動に取り組みます。子どもたちは、ただ見学するのではなく実際に活動する中で、働くことの喜びやつらさを味わったり、社会の現実を肌で感じたりしながら、地域のさまざまな人たちに支えられていることに気付いていきます。このような体験学習は、子どもたちの地域を愛する心を育むとともに、学校と地域社会との結び付きを深めていきます。

## 萩焼に挑戦

~自分の力でやり遂げよう~

茶わんの形を作り終え、あとは焼くだけだから、「もう少しで完成するな」と思いこんでいました。しかし、ここからの道のりが大変だったのです。これをもし売ることになったら、私は世界で一番高い値段をつけたいくらいです。

(山口市立川西中学校 石村麻由香)

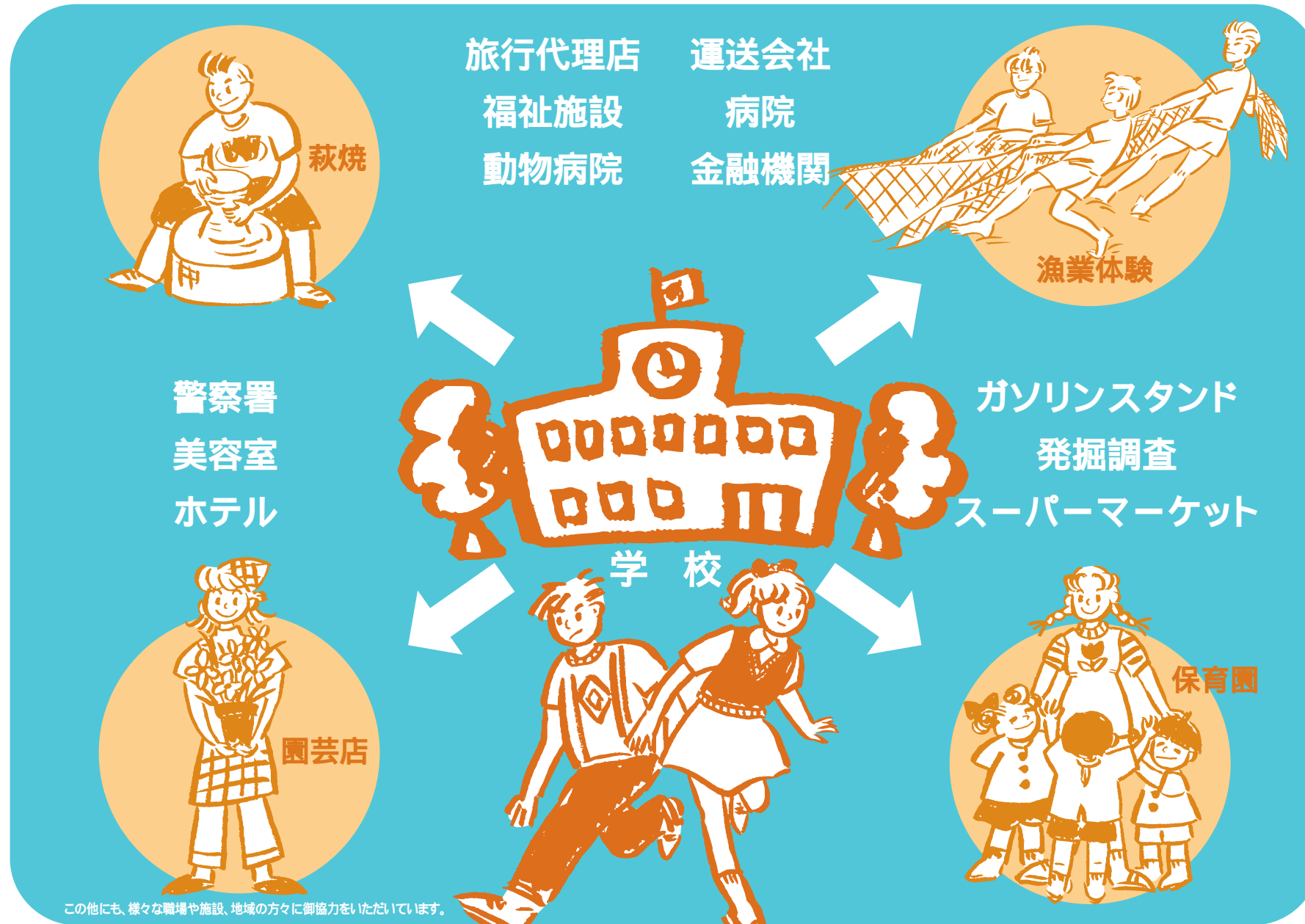


## 土木現場で

~この体験は生きた学習~

今までは土木は汚くて嫌な仕事と思っていましたが、とても名誉な仕事だと思いました。なぜなら、僕たちのために日々働いてくださっているからです。将来は、まだ、何になるか分からないけれど、建設・土木方面で世の中の役に立ちたいです。

(菊川町立菊川中学校 永富浩之)



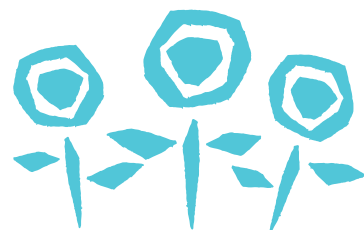
この他にも、様々な職場や施設、地域の方々に御協力をいただいています。

## 園芸店で

~生き方、見つめよう~

花を並べたり、値札を付けたり、重たい荷物を運んだり、ずっとかがんだりして疲れました。こんなことを毎日やっているのかと思うと驚かすにはいられませんでした。

(徳山市立周陽中学校 田中絵梨子)



## 埋蔵文化財センターで

~ふるさと発信“夢体験”~

土器の接合や復元を体験しました。予定になかった発掘作業までさせていただき、僕の夢がかないました。とても地味な作業でしたが、もっと勉強して考古学のことをもっと知りたいと思いました。

(川上村立川上中学校 大田周平)

## 野外活動in端島(岩国市)

~海辺の生活体験~

漁師の方から、島の歴史や生活、漁法についての話を聞いて、漁村の暮らしや働くことの大変さがわかりました。地引き網は思っていたより力が必要で、すごく疲れましたが、たくさんの魚が獲れて感激しました。

(本郷村立本郷中学校 兼平美加)



## 保育園で

~未来へつなげよう“人とのふれあい”~

相手は園児。友だちと接するのが勝手に違うのに、とてもとまどいました。自分もこんなふうにして保育園を卒園したのかと、すごくつかしく思いました。

(楠町立船木中学校 岡田千尋)

## 役場の窓口で

~ふるさとチャレンジ活動~

「ただ座っていればいいんだらう」と仕事をナメてかかっていたのですが、覚えることがたくさんあり大変なことがわかりました。職場の方は、僕が分からなくても、やさしく分かりやすいように教えて下さいました。おかげで3日目は、少しは自分でできるようになりました。

(上関町立上関中学校 清水勇介)



**チャレンジ体験学習**は少人数で行う3日間程度の体験活動です。平成11年度から7つのモデル中学校で始まりました。昨年度のまとめは冊子にして県内の各中学校へ配布しています。子どもたちの体験学習に御理解と御協力をお願いします。

チャレンジ体験学習についてのお問い合わせは 指導課 TEL083-933-4606

## ■ 私たちも応援しています(受入先の方から)

子どもたちには、ものの考え方をアピールしたつもりです。まずやってみようというチャレンジ精神が大切です。店内外の清掃、皿洗い、注文取りなどの接客を体験してもらいました。初めは小さな声でしか挨拶ができませんでしたが、終わる頃にははっと声が出るようになりました。(飲食店)

麵を伸ばすことから箱詰めまでの工程を体験してもらいました。社会でも学校でも同じですが、楽しく勉強や仕事をする方法を見つけないといけません。ポイントをつかんで努力することが、仕事も勉強も成果を上げるコツだと思います。(そうめん製造)

保育園には人見知りの激しい子が多く、最初は知らない人が来ることにとまどいを隠せないようでも心配しましたが、生徒の皆さんが笑顔で接して下さったおかげで、子どもたちも素直に心を開くことができました。また、初めての経験とは思えないくらい積極的に取り組んでいる姿がとても印象的でした。(保育園)



4

## ■ 学校や地域の熱心な姿に感謝しています(保護者から)

子どもというのは、社会に育てられるのだということを我が子を通して本当に実感しました。たったの3日間でしたが、我が子にとって



では、新しい世界を知るよききっかけとなり、また、大人の社会を肌で感じることで、できるすばらしい時間だったと思います。

「大きくなったらおもちゃ屋さんになりたい」これが、子どもが小さい頃の夢でした。それが今では、「考古学を学びたい」に変わってきています。夢は成長とともに変化するものです。埋蔵文化財センターで茶碗や皿の復元、現場での発掘作業を体験させていただいたこと、昼休みには職場の方と山口市内をジョギングしたことなどを嬉しそうに語ってくれました。この体験を通して夢が大きくなる、未来の夢へのかけ橋になればと思っています。



## ■ 学校だけが学びの場ではありません(教師から)

地域の皆さんや事業所から、絶大な協力・支援をいただくことができました。それぞれの職場には御迷惑をおかけしましたが、子どもたちにとっては、自分の進路や可能性を探るためにいいチャンスとなりました。(菊川中学校)

体験場所の遠い生徒については、地域の方々にボランティアで送迎していただきました。学校の力だけでは成し得ない取り組みであることを痛感しました。やらされる体験学習ではなく、生徒自身が選び、学び取る学習でありたいと思います。(川上中学校)

私たちにとっても「挑戦」でした。実施するまでに、思いがけない壁が次々に出現し、その度に、いろいろな人に出会い、助けももらい、乗り越えられました。このチャレンジ体験学習で、もっとも楽しく有意義な学習をしたのは我々教師だったかも知れません。(川西中学校)



## 「殿様寿司」はふるさとの味

岩国市立通津小学校

6年1組の28名が郷土に伝わる岩国寿司づくりに挑戦しました。岩国寿司は、保存・運搬に便利な食料として吉川藩士が考えたということから、殿様寿司とも呼ばれています。



錦糸卵を作る

地域の名人と呼ばれている方を講師に招き、子どもたちは見よう見まねで岩国特産のれんこんを煮たり、寿司米を楽しそうにかき混ぜたりしていました。

お寿司に使ったお米は地域の方に田んぼを借りて、子どもたちみんなが苗から育てて刈り取ったものです。特製の木枠に、ご飯、具、しきりの葉を順に載せたものを一段として三段に重ね、おもしろいように出来上がりです。



どんな味になるかな

子どもたちは、「通津にいる人みんなにこのお寿司を食べてもらいたいね。」と、口いっぱいにお寿司をほおばりながら、ふるさとの味を実感していました。

## 歴史と伝統を受け継ぐ

徳山市立長穂中学校

長穂中学校では、地域に伝わる県の無形民俗文化財「長穂念仏踊り」を15年前から継承しています。

毎月一回、「創意の時間」を利用して、全校生徒37名が保存会の方々の指導を受けながら熱心に練習を重ね、1月の発表会でその成果を披露しました。生徒たちは、代々受け継いで使っている衣装の袴や腰輪などを身に付けて、緊張した面もちで厳粛な舞

を演じ、集まった父母や地域の方々から大きな拍手を受けていました。

地区の伝統芸能の継承が難しくなってきた現在、中学生の役割



年1回の晴れ舞台



指導に真剣に耳を傾ける

は大きくなっており、生徒たちにも、「長穂の伝統を絶やしたくない」という、ふるさを愛する心が芽生えつつあります。

## 地域とふれあい共に生きる

美祢中央高等学校



恒例の「全校一斉奉仕活動」

私立の女子校として昭和41年に開校した美祢中央高等学校では、生徒会活動の一環として、ボランティア活動や福祉活動に取り組んでいます。

中でも、昭和57年以来、毎年夏休みに実施している全校一斉奉仕活動は、第一期生の2人が始めた美祢駅の清掃活動が全校行事に発展したものです。現在では、全校生徒と教職員約240名が参加して、日頃利用しているJR美祢線各駅の除草・清掃作業を行っています。毎年、目にしみる汗を拭いながら炎天下の作業に一所懸命に取り組む生徒たちの姿に、地域の方々からも感謝や励まし

の言葉が寄せられています。

生徒たちは、さまざまな活動に取り組むことで、人を思いやる気持ちを育み、地域社会と協力し合うことの大切さを学んでいるようです。



サマーホットハートキャンプ



# 山口県の学校では、こんな情報教育の取り組みをしています。

## 小学校では

### 萩市立見島小学校 ～マルチメディアは夢の架け橋～



「あれれ？先生、助けて。」

柳井市立新庄小学校、柳井市立平郡東小学校(平郡島)、下松市立深浦小学校(笠戸島)、萩市立見島小学校(見島)の4校では、テレビ電話

やインターネットを利用した交流を進めています。

見島小学校では、5年生の交流授業で、平郡東小学校とテレビ電話システムを使って、お互いの地域の漁業を紹介しました。平郡東からタコ漁の話が出て、「見島ではイカがたくさん採れるよ」というやり取りがありました。続いて見島で釣れた170kgもあるマグロが画面いっぱい映し出されると、平郡東の児童たちはとても驚いていました。授業後には「緊張したけれど面白かったね」「また会いたいな」と楽しそうに子どもたちは話していました。



「見てこのマグロ、お父さんが釣ったんだよ。」



平郡東のお友達に質問がある人。「はーい」

最近では授業以外にも、高学年を中心に電子メールのやり取りが増えているそう、子どもたちは友だちがたくさんできたと喜んでいました。



## 中学校では

### 下関市立安岡中学校 ～宇宙に届け!僕らのメッセージ～



始めは恐る恐る。でも子どもたちは上達が速い。

下関市では、全ての市立中学校(17校)にインターネット対応パソコンが21台ずつ設置されました。下関市立安岡中学校3年生の選択教科の授業では、

宇宙開発事業団のホームページにアクセスし、日本人宇宙飛行士の毛利衛さんの活躍について調べました。ほとんどの生徒にとってインターネット接続は初めての体験でしたが、生徒たちは操作にもすぐに慣れ、スペースシャトルで行われる実験の内容などを楽しそうに調べていました。この授業の中で生徒たちは、毛利さんに「宇宙での生活は大変そうですが楽しそうですね」といった応援メッセージを電子メールで送り、シャトルが無事に帰還し、毛利さんから返事の電子メールが届くように祈っていました。

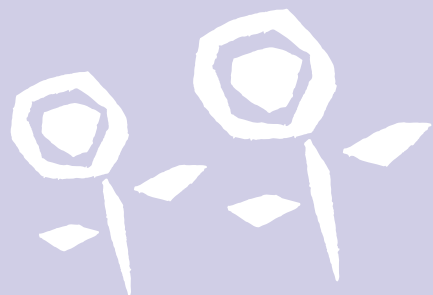


「へえ、こんな実験もしてるんだね。」

将来はコンピュータがより多くの授業で有効活用され、生徒たちが興味をもって自ら学ぶ力を身につけることができるようになるでしょう。



がんばって電子メールを出してみよう。



## 高校では

### 県立徳山商業高等学校 ～地域と共に世界を目指すコンテスト～



企画会議中。「こんなのはどう?」

徳山商業高等学校では、3年生全員が履修する「総合実践」の一環として、Webコンテストを開催しています。このコンテストは、生徒たちが徳山市内の商店などから依頼を受けてそれぞれのホームページを作成するものです。

4人1組のチームを情報関連のベンチャー企業と想定し、社長・渉外・技術・記録の役割分担を決めます。単に指示どおりに作業するだけでなく、季節に合ったPR企画を提案したり、依頼主と交渉したりと、実際の企業と変わらない複雑な業務をこなさなければなりません。生徒たちは、内容・デザインともに全世界に発信して恥ずかしくないものを、という意気込みでホームページをつくり上げていきます。

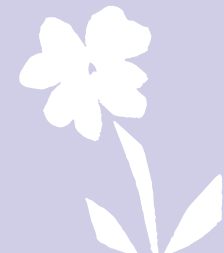


プレゼンテーションも審査対象になります。



地元で評判のパソコン教室では生徒が先生に、

学校ではこのコンテストを一種のインターンシップ(就業体験)と考えており、今後は生徒が依頼主を自分たちで探し、そこで働いてみた上でホームページを作成するなど、より実践的な取り組みの導入を検討しています。



むずかしく考えちゃダメ!「ます」はさめてみることから...? たよぬ。

## ひと言

### 情報を上手に活用しよう



放送大学山口学習センター所長  
井手明雄

コンピュータと通信技術が発達したことにより、身の回りにはたくさんの情報があふれ、しかも、それらを素早くやりとりできるようになりました。情報の量で言うと、10年経てば、それまでの量の倍になる程です。情報の伝わり方も、大都会の中であろうと山の中であろうと関係なく、しかもテレビやラジオより速く伝わるようになりました。そのため社会の変化が激しく、複雑になってきて、社会生活の中で大切な共通の理解が育ちにくくなり、いつも気持ちが悪く落ち着かない状態になっています。情報が人間生活を脅かしています。これではいけません。

人間は情報から逃げるのではなく、上手に情報を操るようにしていかなくてはなりません。そのためには、学校における学習だけに済ませるのではなく、いつも学習する習慣を身につける必要がありますし、社会生活に必要な基本的かつ安定した考え方を、みんなで助け合って育てるようにしていかなくてはならないでしょう。



## イベントカレンダー

4 / 25(火)~5 / 14(日)  
山口県の文化財展

県博物館  
☎083-922-0294

6 / 23(金)~7 / 6(木)  
教科書展示会

中央教科書センター他、県下10会場  
県指導課  
☎083-933-4607

6 / 24(土)~6 / 25(日)  
親子でカヌーツーリング

対象 / 小学4年生以上の児童・生徒とその保護者  
定員 / 30名  
県光青年の家  
☎0833-72-5512

7 / 8(土)~7 / 9(日)  
夏だ 海だ レッツマリン

県油谷青年の家  
☎0837-32-1000

7 / 8(土)~7 / 9(日)  
夏だ! 自然だ! 親子でアウトドア

対象 / 小・中学生とその家族  
定員 / 40名  
県秋吉台青少年宿泊訓練所  
☎0837-62-0106

7 / 14(金)~8 / 27(日)  
不思議体験 光のファンタジー

県立博物館  
☎083-922-0294

7 / 22(土)~7 / 23(日)  
わくわく 海の大ぼうけん

県油谷青年の家  
☎0837-32-1000

7 / 22(土)~7 / 23(日)  
海中散歩してみませんか

対象 / 家族 定員 / 30名  
県大島青年の家  
☎08207-6-0913

7 / 25(火)~7 / 28(金)  
秋吉台少年少女キャンプ

対象 / 小学4年生~6年生 定員 / 40名  
県秋吉台青少年宿泊訓練所  
☎0837-62-0106

## 編集室から

「ふれあい夢通信」の内容を充実させるために、皆様からのご意見やご感想をお待ちしています。今後取り上げたいテーマなどがありましたら、教育企画室までお知らせください。

山口県教育庁教育企画室  
住所 〒753-8501 山口市滝町1 1  
電話 083-933-4531  
ファックス 083-933-4539  
電子メールアドレス fureaiyu@ce.mbn.or.jp



5 / 13(土)~5 / 14(日)  
絵本のお山とほのぼの親子

絵本のお山でよんでもらったよ。「おむすびころりん」なんたかねずみ君もいっしょにお話ししてみたい、またいきたいな...十種ヶ峰

対象 / 幼稚園児、保育園児とその家族  
定員 / 15家族  
県十種ヶ峰青少年野外活動センター  
☎08395-8-0033

5 / 27(土)~5 / 28(日)  
我ら洞くつ探検隊

家族で洞くつを探検し、洞くつに棲む生物を観察したり、洞くつの神秘の世界にふれてみたいしませんか。

対象 / 小・中学生とその家族  
定員 / 40名  
県秋吉台青少年宿泊訓練所  
☎0837-62-0106



7 / 8(土)~7 / 9(日)  
魚の暮らしを知ろう

海の雄大さを味わいながら、船からのキス釣りを楽しみませんか。

対象 / 児童・生徒とその家族  
定員 / 30名  
県光青年の家  
☎0833-72-5512

7 / 29(土)~7 / 30(日)  
親子のヨット体験教室  
~ヨットにチャレンジ~

風と波にゆられるヨットこそまさに“癒し系”! ヨットに乗って親子で光の海を満喫しませんか。

対象 / 家族2名以上(うち1名は大学生以上)  
定員 / 40名  
県スポーツ交流村 ☎0833-71-1144



7 / 22(土)~7 / 30(日)  
チャレンジ・キャンプ

阿東町の十種ヶ峰周辺を中心に、6~8人のグループに分かれて活動します。

対象 / 小学4年生~小学6年生 定員 / 48名  
7 / 27(木)~7 / 30(日)  
親のためのOBSコース  
子どもたちと同じコース(キャンプ後半の4日間)を後追いする形で体験します。  
対象 / チャレンジ・キャンプに参加した子どもの保護者  
定員 / 10名

8 / 17(木)~8 / 27(日)  
クエスト・キャンプ

阿東町を中心とした「山岳のプログラム」秋市での「海のパログラム」で活動します。

対象 / 中学生、高校生  
定員 / 48名  
県社会教育課  
☎083-933-4626  
FAX083-933-4639  
http://www.pref.yamaguchi.jp/gyosei/s-kyoiku/